

平成29年度に係る業務の 実績に関する評価結果概要



はじめに

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「**先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学**」への進化を目指しています。

第3期中期目標期間においては、①先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、②文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、③海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、④これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標として決めました。

神戸大学ビジョン キャッチコピー・イメージ図

Initiative for Excellence
卓越研究のイニシアティブを



(神戸大学ビジョンの詳細は、ウェブサイトの[ビジョン紹介ページ](#)参照)

平成29年度は、この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル人材の育成に向けた教育プログラムの拡大（3ページ参照）を図るとともに、外部有識者を活用した運営の活性化（5ページ参照）を図るなどの取組を実施し、「国立大学法人評価委員会」の評価において、3項目で「順調」、1項目で「おおむね順調」との評価を受けました。

項目	評 定
(1) 業務運営の改善及び効率化	順 調
(2) 財務内容の改善	おおむね順調
(3) 自己点検・評価及び情報提供	順 調
(4) その他業務運営	順 調

※ 各年度における評価では、教育研究等の質の向上の状況に関する評定は付されない。

以下に、「国立大学法人評価委員会」の評価結果において、「注目される」との評価を受けた取組を中心にその概要を掲載します。

教育研究に関して注目される取組

○ 数理・データサイエンスセンターの設置 (戦略性が高く意欲的な目標・計画)

- ・ 全学的な数理・データサイエンスに関する教育研究の充実を図り、世界で活躍するイノベーション人材を育成するため、「数理・データサイエンスセンター」を設置。
- ・ 平成30年度からの本格開講に向けて、「データサイエンス入門 1, 2」を試行的に開講（平成29年度受講者数：70名）。

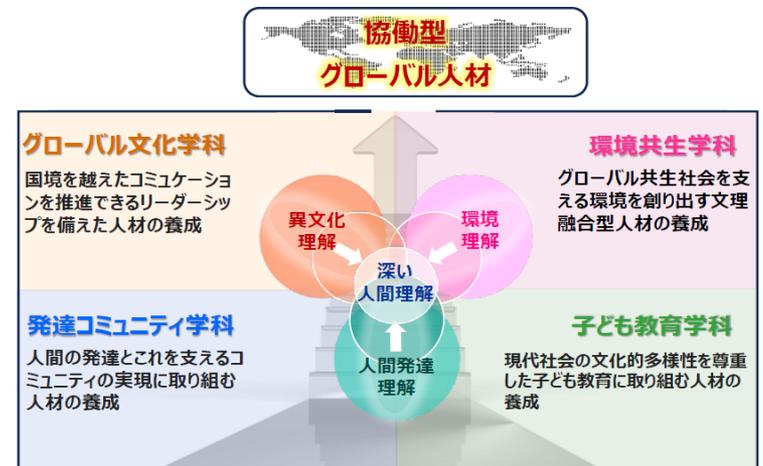
○ 国際人間科学部を設置

(戦略性が高く意欲的な目標・計画)

- ・ 国際文化学部と発達科学部を再編統合し、「協働型グローバル人材」を養成する新学部「国際人間科学部」を設置。
- ・ 「国際開発援助論（JICA）」や「協働型リーダーシップ論」等の学部共通科目に加え、海外研修とフィールド学修から成る「グローバル・スタディーズプログラム」を置き、新たなカリキュラムを開始。

グローバル・スタディーズ・プログラムの流れ

GSFは、事前学修、「GSコース」（海外研修とフィールド学修）、事後学修の3つのステージで構成されます。「GSコース」では、一人ひとりの学修計画に応じて「実践型GSコース」「研修型GSコース」「留学型GSコース」のいずれかを選択します。



国際人間学部概要

教育研究に関して注目される取組

○ グローバル人材育成に向けたダブル・ディグリー・プログラムの展開

(戦略性が高く意欲的な目標・計画)

- ・ 大学院課程（国際文化学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科）でのダブル・ディグリープログラムを新規に4コース開設。
- ・ ダブル・ディグリー・プログラム数が22コースに拡大。

部局	課程	共同設置機関校
人文学研究科	修士	北京外国語大学北京日本学研究中心(中国)
国際文化学研究科	修士	ルーヴェン大学人文学研究科(ベルギー)
国際文化学研究科	修士	ルーヴェン大学 MAES(ベルギー)
国際文化学研究科	修士	ナポリ東洋大学(イタリア)
国際文化学研究科	修士	パリ・デイドロ大学地理・歴史・社会科学研究科(フランス)
法学研究科	修士	ヤゲウォ大学ヨーロッパ研究センター(ポーランド)
法学研究科	修士	貿易大学(ベトナム)
経済学研究科	修士	ルーヴェン大学ヨーロッパ研究センター・人文学部・経済経営学部(ベルギー)
経済学研究科	修士	北京外国語大学北京日本学研究中心(中国)
経済学研究科	修士	武漢大学外国語文学学院日本語学部(中国)
経済学研究科	修士	貿易大学(ベトナム)

部局	課程	共同設置機関校
経済学研究科	学士	貿易大学日本語学部(ベトナム)
経済学研究科	学士	武漢大学外国語文学学院(中国)
経営学研究科	博士	シェフィールド大学マネジメントスクール(イギリス)
国際協力研究科	修士	インドネシア大学経済学研究科(インドネシア)
国際協力研究科	修士	ガジャマダ大学経済経営研究科(インドネシア)
国際協力研究科	修士	ガジャマダ大学都市工学系研究科(インドネシア)
国際協力研究科	修士	ガジャマダ大学政治学研究科(インドネシア)
国際協力研究科	修士	高麗大学校国際大学院(韓国)
国際協力研究科	修士	復旦大学国際関係・公共事務学院(中国)
国際協力研究科	修士	イーストアングリア大学国際開発学部(英国)
国際協力研究科	修士	ピッツバーグ大学公共国際関係学研究科(米国)

○ 多職種連携研修の開催による地域医療の担い手育成

- ・ 兵庫県下の医療機関の医療提供体制を強化するため、災害・救急医療、感染症医療、高齢者医療等の多職種が連携した研修、救急救命・新生児蘇生・産科急変等に対する講習会の開催、県内若手医師を対象とした動物を用いた低侵襲外科手術トレーニング研修の開催等、現場のニーズも踏まえながら地域医療の担い手を育成。

業務運営等に関して注目される取組

○ 外部有識者の活用による運営の活性化

- ・ [海外アドバイザーボード委員からの意見を踏まえ](#)、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキアの大学との優れたコース・学位プログラムを開設する大学への助成を行う[基金へ申請・採択](#)。
- ・ EUにおける中・東欧地域の重要性や日本と中・東欧地域との関連、日本における同地域の位置づけについて学ぶコースを開始。



海外アドバイザーボードの様子

○ 国際的な研究成果の発信強化

- ・ 海外メディアへの研究ニュースの配信及び海外の大学や研究機関との連携につなげるため、研究ニュースポータル（EurekAlert!、AlphaGalileo）を活用し、研究活動の海外発信を展開。同ポータルでの発信をきっかけに[オーストラリアクィーンズランド州政府による英語版「河川の流量を測定するシステム（KU-STIV）」の購入](#)に至る成果を上げる。



EurekAlert!
The Global Source for Science News

AAAS

HOME NEWS MULTIMEDIA MEETINGS PORTALS ABOUT

PUBLIC RELEASE: 24-APR-2016

Measuring river surface flow with image analysis

KOBE UNIVERSITY

SHARE PRINT E-MAIL

Fujita Ichiro, a Professor at the Graduate School of Engineering in Kobe University, has developed a piece of software that can measure the flow rate of rivers using image analysis. The software is called KU-STIV (Kobe University Space-Time Image Velocimetry). This technology makes it easier to obtain accurate data about river flow rates that can be used in strategies for flood risk management.

Japan is hit by flood-related disasters almost every year - one of the most recent examples occurred in September 2015

IMAGE: A SCREENSHOT OF THE ENGLISH-

EurekAlert! 掲載ページ



AlphaGalileo

AlphaGalileo is a resource for the media. Journalists should register for free access to embargoed news and press office contact information.

WELCOME BY ADMINISTRATOR
Forgot my login? Logout

All regions: Africa Asia Caribbean Europe Latin America Middle East North America Oceania Extraterrestrial

All categories: Science Health Society Humanities Arts Applied science Business

Content: All content types News Releases Events Publication Background Blog

News release: PDF Print Share Facebook Twitter GooglePlus Reddit

For further information, please contact:
Shane Walker
+61 78 801 5382
intl.relations@office.kobe-u.ac.jp

Measuring river surface flow with image analysis

23/04/2016, Kobe University

Bookmark this item in My Area
Add comments to this news release

Fujita Ichiro, a Professor at the Graduate School of Engineering in Kobe University, has developed a piece of software that can measure the flow rate of rivers using image analysis. The software is called KU-STIV (Kobe University Space-Time Image Velocimetry). This technology makes it easier to obtain accurate data about river flow rates that can be used in strategies for flood risk management.

Japan is hit by flood-related disasters almost every year - one of the most recent examples occurred in September 2015 when the Kinogawa River collapsed its banks, sending a wall of water into the nearby town of Joou. Accurate data for rainfall and river flow rate are vital elements in creating flood risk management strategies. Thanks to developments in radar technology, rainfall measurements have become

Breaking news in your pocket.

AlphaGalileo 掲載ページ

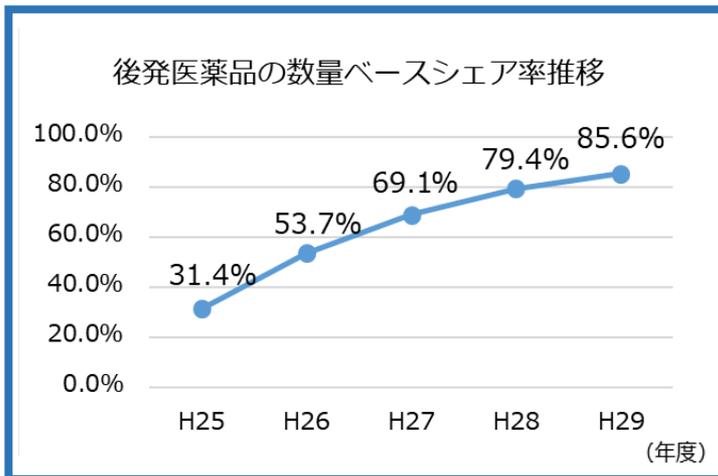
業務運営等に関して注目される取組

○ 患者相談報告システムによる医療安全体制の強化

- 医療事故を未然に防ぐためのインシデント報告システムに新たに患者相談報告システム機能を追加し、患者相談窓口で受けた患者相談内容を速やかに医療の質・安全管理部に報告する仕組みを構築。

○ 医薬品経費削減に向けた取組の実施

- 医薬品の経費削減を図るため、直近1年間の医薬品の使用状況を調査し、安全性に十分配慮した上で購入量が少ない40品目の採用中止や先発医薬品56品目の後発医薬品への切替等に取り組んだ結果、後発医薬品の数量ベースシェア率が85.6%（対前年度比6.2ポイント増）。



課題として指摘された事項

○ 財務諸表上の当期総損失に関する課題

- ・ 新たに整備した国際がん医療・研究センターにおいて、当初計画どおり企業からの支援を受けられなかったこと等により当期総損失が生じていることから、財政再建に向けた取組を計画的に実施することが求められる。

(参考) 課題として指摘された事項への本学の対応について

- ・ 国際がん医療・研究センターにおいて、以下の取組を実施
 - 平成30年度から附属病院との連携を強化し、入院患者受け入れ・退院支援の実施
 - 手術件数を増加させるなど医業収益を増加させるため、経営計画を見直し、病床数を30床から50床へ増床
 - 経常費用を縮減するため、附属病院との人事交流や徹底的な経費節減の実施